



富士木材センター完成

将来は総合木材市場に発展

県東部地区 6 市 4 町のヒノキ、スギ林約 5,300 ㍏から切り出される素材や間伐材などの集荷市場として、「富士木材センター」が、市内曾比奈に建てられ12月10日オープン、初ゼリが行われます。

この木材センターは、県と市および県森連など 6 団体が県東部地区森林総合利用促進事業の一つとしてスタートしたもので、このほど県と富士市が折半で工費 1,900 万円をもって、プレハブ造りの管理棟 1 棟と約 3,000 平方㍏の木材集積場が建設されました。

富士山麓は優良林木の宝庫

富士山麓の富士市をはじめ富士宮御殿場、裾野、沼津、三島の 6 市および芝川、小山、長泉、清水の 4 町の山林には、終戦後、植林した優良のヒノキ、スギの林約 5,300 ㍏が保有され、すでに 20～30 年生が大部分をしめ、間伐の適期にあります。この木材センターの開設によってこれまでほとんど値がつかなかった間伐材も、建築材の一部として相当量出荷されるものと期待されています。

また、富士市では優良のヒノキ林スギ林を育てるため枝切りなどに助成金を出して森林の育成に力コブを入れています。

運営管理は

このほかこの木材センターの運営は富士市および県と県森林組合連合会、県木材協同組合連合会、富士市林業振興対策協議会、県東部地区林業振興対策協議会が運営協議会をつくり適切な管理運営を行い、また将来は建築用材などを取り扱う総合木材市場にまで発展させたいと関係者は張切っています。

くわしいことは、富士木材センター（☎35-3577）又は市経済部林政課（☎51-0123 内線412）へご連絡ください。

素材年間 1 万立方㍏を目標にしていきます。また間伐材 1,000 立方㍏の集荷を促進するため、選別等に要する土場経費を、今年度に限って助成し出荷者の負担を軽減することも考えています。



当初の取扱量は

今年度は、集出荷の円滑化を確立していきながら、取扱量としては、

植林の間伐を実施しましょう

今まで植林の間伐を実施しても量が少ないと商品にならず、山にすてられた例が多かったと思いますが、このたび市内曾比奈地先に富士木材センターが完成いたしました。

富士木材センターには、大畑所長以下 2 名が、日曜、祭日以外常に勤務し、木材を責任もって預かり、入札してくれます。皆様おおいに利用してください。